

二十軒の農家で栽培している無農薬の「おあしす米」。年に一度、生産者と消費者の交流会を開くのが恒例となっている。今年もその「アイガモ田見学ツアー&バーベキュー大会」が七月下旬に開催された。参加者は約八十名。例年よりは少ないが、イベントとしては大盛況だった。我が家からお米を買ってくれている友人が二組も東京から遊びに来てくれて、私たちにとってもうれしいイベントになった。

まずは、アイガモが活躍している田んぼをお客さんに見てもらおう。愛らしいアイガモたちを見て、お客さんは大喜びだ。

田んぼ見学の後は、地元産の牛肉やおあしす米のおにぎりなどでおもてなし。「いつもお買い上げいただきありがとうございます。生産者」という気持ちをおもて、生産者ごとにお客さんとテーブルを囲

南阿蘇

吉田 愛梨

里の風

む。バーベキューには暑すぎる気候だったが、生産者とお客さんが触れ合う貴重なひととき。肉を焼くしながら、今年のコメの成長具合や村での出来事を話す。常連のお客さんが多いため、こちらもお子さんの成長ぶりや近況を聞く。たっぷり語らった後、お客さんたちは生産者たちがつくった野菜のお

おあしす米

土産を手にも帰られる。安心・安全な農産物への関心が高まり、生産履歴を記録することが議論されている今日このごろ。しかし消費者との触れ合いがあればそんな制度はいらない、とあらためて思ったイベントだった。顔を知っている人に売らるなら、不正や手抜きはできない。そんなこと



絵・有働 孝昭

をしたら、合わせる顔がない。そしてお客さまもそれを信頼してくれている。

おあしす米生産者組合ができたころは「無農薬米の産直などできるはずがない」と誰もが冷ややかに言っていたそうだ。しかし十年たった現在、お客さまは全国に約七万件。その数は今も増え続けている。おあしす米を作りつづけてきた先輩たちの先見性と意志の強さには感動する。

ところで、消費者との交流イベントでは次世代の活躍も目立つ。農業を継いだ二十代の仲間に加え、今年は役場勤めの友人も参加。夏休み中の高校生たちも加勢にきた。消費者との触れ合いを大切にしながら、誇りを持って無農薬米づくりに取り組んできた両親たちを見て育った彼ら。きっと彼らも農業に誇りを持っていることだろう。(おあしす米生産者、NPO九州バイオフォーラム理事長)